



おちほ

第54号 平成18年2月20日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

メリークリスマス IN 落穂!



メリークリスマス！みなさんは今年度のクリスマスはどのような過ごされましたか？落穂寮では今年度も12月24日にクリスマス会が行われました。その楽しい様子をお伝えしたいと思います。まずはお昼の部から。今年度も色々な出し物がありました。オープニングは山下寮長によるチェロとゲストとしてあざみ・もみじ寮から来ていただいた小鳥さんによるクラシック演奏。素敵なハーモニでみんなを楽しませてくれました。続いては男子棟高田兄弟によるお笑い漫才ショー。次々と繰り出されるボケと「何でやねん！」のハードな突っ込みに場内は大爆笑！大いにクリスマス会を盛り上げてくれました。さてお炊事のみなさんが作ってくれた手造りのおやつを食べた後は職員によるダンスと音楽。今度は体を動したり楽器を使ったりと寮生職員共々楽しみました。

さて、夜にはお楽しみみのクリスマスディナーとプレゼント。きれいに飾られた食堂で普段より豪華な夕食に寮生さんも大満足。メインの鳥のモモ焼きでは、骨まで食べてしまいうような勢いでした。デザートのカレーを食べた後はいよいよプレゼント渡し。みんなでクリスマス会の歌を歌う中、サンタさんが登場。プレゼントをもらった寮生さんは笑顔いっぱいでした。サンタさん、また来年度も来て下さいね。



感 雑



理事長 高井正義

新年あけましておめでとうございませう。二〇〇六年の新春を皆さまには健やかに迎えになったことと存じます。

さて、私こと平成十五年に公職を退職して以来、自分の趣味を生かして、のんびりと余生を過ごしておりますところ、昨年七月に、法人の増田正司前理事長が退任されることになり、その後任を引き継ぐことになり、些か緊張を感じる新年となりました。

人の世にはいろんな出会い、めぐり合いがございます。めぐり合いというところで頭に浮かびますことに先人の著書があります。

知的障害児・者の教育に生涯を捧げられ、故糸賀一雄先生と共に近江学園の創立に参加され、その後、信楽学園の園長として知的障害者の職業指導に専念され、信楽青年寮を創設して信楽町を日本の福祉の町として育てられた、故池

田太郎先生の著書のなかに「めぐりあい・ひびきあい・はえあいの教育」という書物があります。簡単な言葉ではありますが、辞書を引いてみますと、「めぐりあい」は出

会います。自然にまわってくる運命とあります。「ひびきあい」はこたえあう。影響しあうとあります。「はえあい」は夕日の映える映画の映の字で、光を映して。美しく輝く。てり輝く。とあります。即ち、人にはいろんなめぐり合い、出会いがある。その出会いのなかで、こたえあい、影響しあうことによつて教える方も教えられる方もお互いが映えあい、光り輝き、高めあう姿が大切であり、教育とは出会いを大事に影響しあつて、双方が高められていくことに真の意味がある。ということになると思ひます。

私は、常々このことは、教育の世界だけではなく、親子・夫婦・友人・社会人等全ての人間関係に

相通ずること、自分と相手それぞれが、お互いを大切に考えていかなばならない人間関係の基本的理念であると考へている者です。

昨今の報道機関からは幼少児の誘拐や殺人事件、耐震偽装問題、インターネット関連企業の証券取引法違反事件等々、人間の心の絡んだ暗い醜い問題が大きく報じられています。このことは「相手より自分」「心より金」といった現代の社会風潮の表われではないかと思われませう。

私たちが知的障害児・者関係者におきましても、財源論により「障害者自立支援法」が昨年国会で成立しましたが、この法では、福祉サービスの利用の頻度が多い重度障害者ほど負担額が増え、家族からも利用料を徴収するという「受益負担」の導入は、障害者の暮らしと未来の展望を一層暗くするものと思われませう。

相手の立場に立つて人の心を大切に考へられる、豊かで明るい話題の多き年になることを願ひつつ、微力ながらも法人運営に努力してまいりたいと思ひます。よろしくご支援ご協力の程お願い申し上げます。

ざっかん

年頭杞憂

寮長 山下陽一

謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、去年を思い返して、なんと暗い話題が多かったことでしょう。しかも、過去に例がない気象現象、続く列車事故など、さまざまに連続して発生しています。また、無抵抗な少女が連続して毒牙にかかってしまったことなど、現代この世は脱出したいほどのたいへんな暗闇に陥っているのではないかとさえ思えます。

その中であって、唯一の明るさを感じることはありません。それは落穂察の行事などに親子連れでやってくる、旧職員の子どもたちが着実に成長している姿を見せてくれることでした。

閉塞社会の出口はどこ

秩序と安全が保たれていると思われていた地域社会は、学区内に自警団を組織して通学児童を護ってやらないと、安全が確保できないところまで治安が乱れてしまいました。犯罪者は弱い立場にある人の命を、ジャングルの中の獲物のように狙っ

ているらしいことが裁判で明らかにされました。

熾烈きわめる競争社会で「負け組」の連中は、より弱者に襲いかかる。そして警察に逮捕され、裁判の後、「迷惑をかけた、もうしません。一生をもつて償います。」といっていました。先日の最高裁の裁判では、宮崎被告を生んだ社会の病巣がどこにあったのかまったく真相が究明されないまま判決のみが下されました。これでは被害者も本人の肉親たちもまったくやりきれません。

ローマ時代から「健全なる精神は健全なる身体に宿る」といわれてきました。現代の世相を考えると、この考え方はクーペタン男爵による近代オリビック復興がその頂点に達したものの、現在はこの思想の背景にある「肉」と「精神」を分離する「二元論」的なものの考え方を疑ってかかる必要があるのではないかと思つていきます。

生命科学の研究者である、柳澤桂子さんが永年の病苦の果てに六十六歳で到達した真理は「ものを一元的に見ると、すべて起こっていることには実態がない」ということでした。この著作「生きて死ぬ智慧」は幅広く読まれているようですが、柳澤さんほどの苦悩体験がないわれわれがどれほど深く理解できるかは別にして、今後の人の生き方を考える際の「自覚」の兆しが現れているの

ではないかと思つているのですが、これについては別の機会に考えたいと思つていきます。

制度が大きく変わる

さて、次に私たちの福祉の仕事について触れなければなりません。これも天変地異ならぬ大きな制度変革がなされます。福祉を利用している人も、その周囲にいる人も、私たち直接支援にあたる者も、経験したことの大きい大きな変更に固唾を呑んで様子を見ています。

まず、本人負担として収入に応じて支払い額が決定され、大方の私たちは負担が増えることになります。この制度が強く求められるのは、家庭で生活する障害のある人たちに比較して、入所施設を利用している人たちは医療費、食費、日用品費など負担が少ないことから、公平性を確保するというのがねらいだと説明されています。しかも預貯金(三五〇万円以上)がある人は利用者負担(二割負担)軽減の特典がありません。不足生活費は預貯金を当てなさい、という仕組みになっています。そして、働いて得た収入は、手元にあまり残すことができません。そんな制度になれば、本人の就労意欲を削ぐことになるのではないかと多くの立場の人が懸念を示し反対しています。

また、落穂察のような入所生活をしている施設は、自宅で生活して

る人たちも利用できるように選択肢を広げるといふことで、昼を過ごす(生活介護)部分と、土・日を含んだ夜間の生活(施設入所支援)部分と二つに分割するというものです。それぞれのサービス(馴染めないことばですが)を区分けして契約を交わし利用することになります。

現在、入所施設を利用している人については、地域生活移行を促進するにあたって、数値を示した移行計画をたてることも求められています。しかし、現在の落穂察は年間四十四日の自宅生活帰省を設定していますが、いろいろな原因で帰省できない日数が増えています。この傾向は近隣の施設でも同様な現象が起きていると予想しています。

本人にも保護者にも、十年、二十年後はあつという間にやってくるでしょう。そのときに健康で安定した生活ができるよう、子どもの適切な時機にのみ身に付く「ちから」をしっかり獲得して成長してきていくのでしょうか。大きな心配が残ります。

財源不足の中で考案された制度は動き出せば当分変更されることはないでしょう。そのツケが保護者や兄弟たちが体力・気力が衰えたころに、どつと回ってくるのではないのか。ひたすら今選んでいる道が間違っていないことを祈ることしきりです。



2005年度
 リッツミュージック旅行



今年の汚れ 今年のうちに



落穂寮では、盆と年末に寮（棟内）の大掃除をしています。

「今年の汚れ、今年のうちに！」を合言葉に、大掃除を行いました。居室のタンスの裏や、畳を上げて叩いたり、トイレの換気扇を外しての掃除等、徹底的に行います。もちろん寮生さん達も自分達の生活している場所なので、出来る

▲今年の汚れは



▲キレイになつた☆



▲今年のうちに！

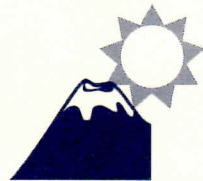


います。(を)付けゴシゴシ磨いてくれます。一日では到底できないので土日を使って、少しずつ行いました。そのおかげもあり、棟はキレイになり、新年を迎える事ができました。いつも大掃除をしようのですが、「ああ、自分の部屋もしないと…」こっちは自分でがんばります…。

所は手伝ってもあります。居室の荷物を外に出すのを手伝って貰ったりしています。特に窓拭きは取り組める人が多く、雑巾片手にガラスクリーナー（自分でできる寮生さんも

落穂寮のゆくゆく年くる年

みなさんは年末年始をどのように過ごされましたか？ここでは落穂寮の年末年始を紹介したいと思います。



まずは大晦日、大晦日と言えば、年越しそばですよ。もちろん落穂寮でも大晦日の夕食は、おそばです。（しかも天ぷらそば！）みんなでおしく頂きました。お炊事の方、一年間ありがとうございました。その後は紅白を見て…といきたいのですが、寮生さんは八時には消灯。年越



▲今年もお願いしま〜す。

しの瞬間は夢の中…。みんな良い夢を見たのでしょうか？

さて年も明けて一月一日、お炊事の方もお休みなので、職員が料理をします。美味しくお雑煮とおせち（これは炊事！）を頂きました。いつもはこの後、初詣に行くのですが、今回は寮生さんが一名おたふく風邪をこじらせ動けず。今年のはのんびり棟内で過ごしました。夕食は正月なので焼き肉。ホールに机を出していつもより家庭的な雰囲気です。二日になって、元気な寮生さんは近くの神社に初詣に行きました。

普段は日課などで忙しいので、寮生さんものんびり正月気分を満喫されたのではないのでしょうか？



▲しつかりおまいり！

お仕事組のお楽しみ外出



男子棟では、木之元亮さんと江竜弘泰さんと山口元二さんの三人がそれぞれ寮外の違った場所でお仕事をされています。彼らの仕事は、とても大変なものです。泥だらけになって帰ってこられる方、仕事による手荒れや筋肉痛になっておられる方がいます。仕事が嫌になる日もあると思いますが、それでも次の日には朝早くから食事を取り、「行つてきます」と言つて向かわれるのです。そんな彼らの働きぶりに、私はとても感心しています。



彼らの休日の楽しみは、男子棟でのドライブでした。雨の日も寒い日も暑い日も頑張つて働いておられる彼らに対し、リフレッシュしていただく特別な日を設けましょう☆ということ、去年(二〇〇五年四月)より月に一回の「お仕事組お楽しみ外出」が始まりました。外出は、第三日曜日。この日になる

と彼らは、待つてました。とばかりに、行く前からとても嬉しそう



な様子です。外出先では、たいていは、彼らの好きなこと、美味しい物を食べてこられます。まず選ぶ時にはどれにしようかと目をキラキラさせてゆつくりと選ばれます。そして、食べる時には夢中になって黙々と食べられ、あつという間になくなり、「美味しかった♡」と笑顔が見られます。外

の様々な物を見て、感じて、清々しい顔になって帰つてこられるのを見ていると、やはりこの外出は大事な時間なのだと感じます。この外出を設けることで、彼らにとっては「また来月も頑張るぞ!!」という仕事の励みになつて

いる事でしょう。明日からも元気にお仕事頑張つてきて下さいね😊

〈棟内が美容室に早変わり〉

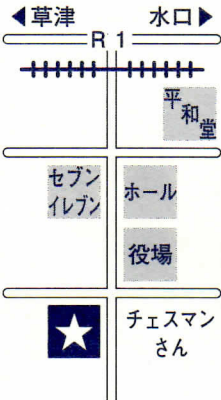
ボランティアー紹介

寮生さんの中には、散髪を苦手とされる方が多数おられます。理由としては、じつと座ってられない。ケープや刃物が苦手など…。ですから、美容室に行くのも一苦労な状態なのです。職員が切つても技術がないので、綺麗にしてあげる事が出来ません。そんな時、女子寮生さんの救世主が現われました。

石部で美容師をされている、ちえすまんさん(園恵子さん)が忙しい年末にも関わらず、ボランティアで髪をカットしに来て下さいました。以前も来て下さっていたという事もあり、寮生さんの行動も理解して下さっており、寮生さん自身も安心してカットをお願いされています。



寮生さんが動いてしまわれても、散髪が苦痛に感じない様に：と切りにくい姿勢でカットして頂けたりと寮生さんの事を非常に尊重して下さいました。髪型一つで気持ちも明るくなる様で、カットされている最中は皆さん目がキラキラしていて、とてもワクワクされていました。



去年(二〇〇五年四月)より月に一回の「お仕事組お楽しみ外出」が始まりました。外出は、第三日曜日。この日になる

明日からも元気にお仕事頑張つてきて下さいね😊

今年も明るい年を!! ありがとう

毎年、新年を明るく迎えさせてくださる方々が、今回も昨年十二月十日に来て下さいました。

NECライティング労働組合さん
NECSCHOTTコンポーネンツ労働組合さんのみなさんです。

一年間、私達の生活を明るく支え続けてくれた蛍光灯にお礼を告げ、新たな蛍光灯にかわり、気持ち良く新年を迎えることができました。常日頃はあまり意識しない灯りですが、先日も停電でつかない事があり、大切さを痛感させられました。特に食堂の蛍光灯が全て取り替えられ、



NECライティング
NECSCHOTTコンポーネンツ労働組合)の皆様です。

気付かないうちに暗くなっていた事に気付かされ、お陰で、食事にも更においしく頂くことができるようになりました。
ありがとうございました。これからも宜しく御願い致します。

クルメなもちつき

昨年十二月十五日

に湖南市民生児童委員協議会南地域生活障害者福祉部会の十六名の方々が、落穂寮に『もちつき』のボランティアに来て下さいました。数人の寮生さんは支援を受けて杵でもちつきを体験されましたが、殆どの方は主に声援や視援での参加でした。でも、皆さ



▲湖南市民児協の皆様です。



んはとても楽しんで参加しておられました。今年はおろし・あんこ・きなこ・黒ごま・ひきわり納豆の五種類に仕上げて下さり、とてもグルメなもちつきとなりました。全員で

おいしく頂きました。

ところで、今回ついて頂いたのは全部で20升という沢山のおもちだったのですが、さすがは落穂寮の寮生さんです。わずか半月たらずで完食されました。余程、おいしかったものと思われれます。

次回も心待ちにしております。ありがとうございました。

泉

▽昨年末から今年にかけての大雪は、ここ落穂寮でも大変でした。雪が降っていなくても、道に積もった雪が溶けない事には散歩にも行けず、何とか溶けたと思っただけで、何とかなったと思っただけで、ほんの僅かに残った雪で転倒してしまふ寮生さんもいて、棟内で過ごさざるを得ない日々が続きました。長い廊下があり、何人かの人は運動不足を解消するかの様に時折ダッシュをしておられました。その他の人々はビデオを見たり音楽を聴いたり造形したりして過ごされてきました。こんな時に何を提供することが出来るか、職員の問題・資質・力量が問われる問題だなあとつくづく思われる雪の日でした。

ことば

『ふれあえる』って
どんな感じだろう。

『つながっていられる』って
どこまでいくんだろう。

肌で……。
心で……。

確かめてみてよ。
人として、生まれたんだから。